

Title	宗家傳來吳道士筆觀世音尊像の話
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3) ,p.12- 12
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300-0012

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

宗家傳來吳道士筆觀世音尊像の話

宗家傳來の吳道士筆觀世音尊像は昔より有名なものである。これは寛文十一年十月廿六日に家臣大庭頭兵衛なる者が、朝鮮の釜山に於て代銀八貫匁を以て買ひ入れたものと記録に見え、爾來宗家の重寶の一となつたのである。自分は先年幸にして其尊像を拜んだ事もあるが、これに就いて昔より色々の話が傳へられて居る。自分が曾て祖母より聞いた話のみに、寛政年間宗家の朝鮮貿易が思はしくなく、勝手元不如意の爲に、其尊像を江戸に送つて勿體なくも質入した處、不思議にも其夜から其質屋の主人の夢枕に、毎夜石の觀音様がお立ちになつて『宗家に歸り度い。々々』とおしやるので、主人は恐れて早速宗家に返納したと云ふ。又つい近年の事であるが、再び質入した處亦同様の事があつたと聞いて居る。猶この尊像を手に入れた家には必らず禍があると傳へられ、近年死んだ有名な某畫伯もこの尊像を手に入れた一人であるとか。今は何處に祕藏せられて居るかは知らないが、古老等は再度宗家に御歸りになるものと堅く信じて居るとか。ゆめ／＼疑ふ勿れ。

「塵泥錄より」武田勝藏稿